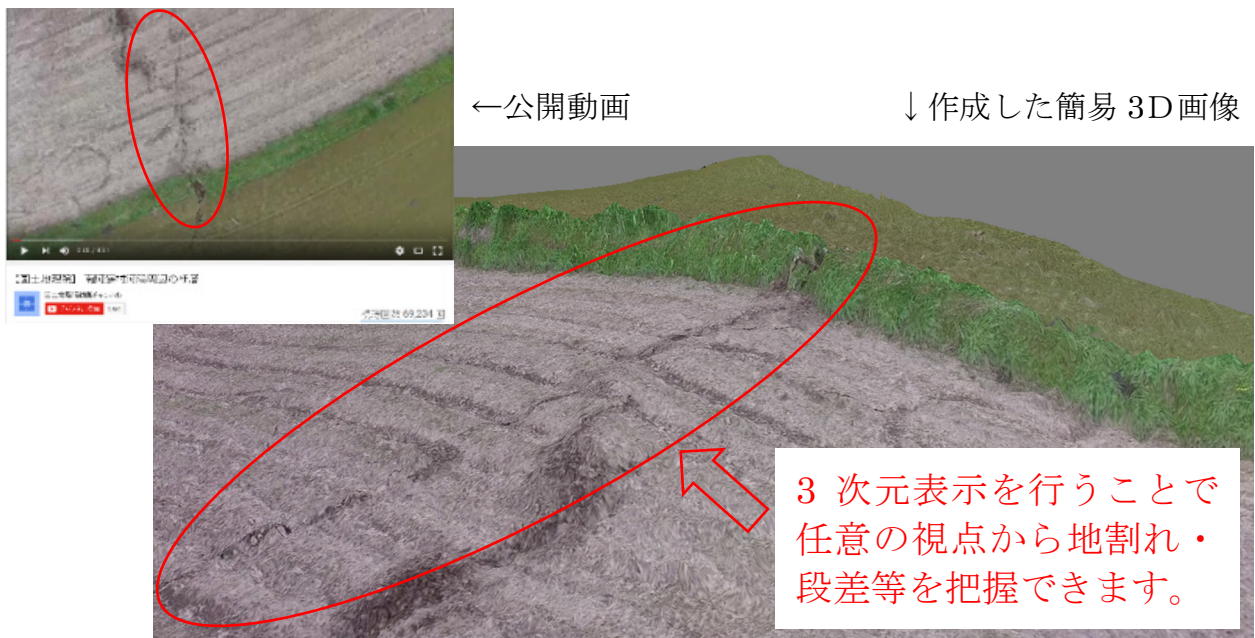


## 1. 農地・施設の復旧・整備技術情報

# リモートセンシングデータを用いた 被害や地表面状態の把握

1. 平成 28 年熊本地震では、多数の圃場で地割れ等の損壊が発生しました。本資料では、リモートセンシングデータを用いて、地割れ等の地表面状態を把握する手法を紹介します。
2. 大規模被災地では、人工衛星、航空機、ヘリコプター、UAV など多種のリモートセンシングデータが取得されています。リモートセンシングデータの多くは、視点の異なる画像の重複領域において、視線方向の 3 次元計測が可能です。また、近年、SfM/MVS という技術の発達により、比較的容易に 3 次元モデルを作成することができるようになりました。
3. 計測可能な精度は、画像取得条件によりますが、高い空間解像度で十分に重複領域を確保する撮影を行えば、圃場の細かな高低差でも検出可能であり、地割れ・段差などの大きさを定量的に把握することもできます。農研機構では、各種リモートセンシングデータの撮影や撮影後の処理について技術支援を行います。



©国土地理院・熊本市

図 1 国土地理院 HP で公開されている直下視 UAV 動画より作成した地割れ圃場の簡易 3D 画像

<http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/H27-kumamoto-earthquake-index.html#7>

問い合わせ先：農研機構 農業環境変動研究センター 029-838-8181